

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人権教育研究室
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「人権教育の基本方針」に基づき、人権教育科目の体系的なカリキュラムマップを作成する。	→人権教育科目のカリキュラムマップの有無。	C	B	B	B	B
2. 人権教育研究室内の活動をメディアに定期的に発信するとともに、人権教育に関わる近隣の大学や公共機関・団体との連携事業を行う。	→メディアからの情報による講演会等への参加者数、および連携事業の開催数。	B	B	B	B	B
3. 現在の指定研究の再編成を行い、人権教育の新たな展開を研究テーマとした指定研究チームを設置する。	→指定研究チームをひとつ新設する。	C	C	B	A	A
4. 人権教育科目の企画立案とは別に、写真・パネル展やそれと関連したトークセッションを開催し、人権課題への理解と関心を深める機会を提供する。	→写真・パネル展とトークセッションの企画を、春学期、秋学期のどちらかで一回開催。	B	B	A	A	A
5. 人権教育研究のホームページに、人権課題の解説や相談窓口の説明文書などに関するコンテンツを拡充する。	→追加拡充したコンテンツ数。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 従来より、人権教育研究室から、学長や大学執行部に対して「関西学院大学人権教育の基本方針」の制定を依頼してきた。2012年度は人権教育研究室に指定研究を組織し、大学紛争中の考え方、学長の考え方等を学習した。2013年度は人権教育研究室のメンバーが中心となり、学長との意見交換等を行い成文化した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年3月に学長名で大学評議会に報告された。これにより、基本方針が明確となり、人権教育科目の体系化の指標が明確になった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 人権教育科目を基本方針に則り、分析し、カリキュラムマップを作成する。また、不足領域について人権教育科目を追加する。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 広報室経由してマスコミに広報だけでなく、新聞社の近隣支局にチラシ、ポスターを直送するとともに、事務局が外部の人権機関、新聞社、公共機関へ直接出向き、情宣活動を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アンケート結果によると、平均して1割程度の参加者が新聞等のメディアを見て参加したと回答があった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共通課題について他大学と連携を深めていき、他大学や外部の人権機関との共催等を推進する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 人権教育研究室で、2011年度の指定研究チームの研究内容を見直すとともに、緊急に検討すべき課題を研究テーマと設定し、短期的に成果を出すことを義務付ける新たなチームを設置する。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011年度の4つの研究チームのうち2チームを残し、新たに「国際人権に関する研究」チームを設置するとともに、期限付きの研究チームとして「本学における人権教育の基本方針策定に向けての研究」チーム、「在日外国人の人権保障のために大学が果たすべき役割についての研究」チームを設置した。そして、2014年3月に出された「関西学院大学人権教育の基本方針」の作成に貢献した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究課題を公募し、人権に関する新しい課題に対応できる柔軟な研究体制をつくる。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 人権教育研究室のみが企画して実施するのではなく、人権教育研究員の教員が学生や学生グループ、関係団体を取り込んだ企画を行い春学期には「セクシュアルマイノリティ」、秋学期には「ブラック企業」をテーマとするトークセッション、パネル展、写真展を実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 多くの参加者があり、またアンケート結果も好評であった。しかし、それぞれのテーマに関係する部署の参加を求めたが、参加者がなかった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生活動支援室やキャリアセンターとの関係部署と良好な関係を作り、やがては企画共催できるよう進めていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標5	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 様々な悩みをもつ学生にアドバイスできるようなページを作成しようとしたが、この内容については人権教育研究室のみが担うのではなく、学生活動支援室等の協力が必要であるため、実施できなかった。「関西学院大学人権教育の基本方針」をホームページの「人権問題資料集」に追加した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「関西学院大学人権教育の基本方針」を掲載することにより、より広く社会に本学の人権教育の取り組みを広報することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生活動支援室や関係部署と良好な関係を作り、調整しつつホームページを整備していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆